



No. 95

発行人・渋沢茂  
発行所・(社)千葉県社会福祉士会事務局  
〒260-0026  
千葉県千葉市中央区千葉港7-1  
塚本千葉第五ビル3F  
TEL043-238-2866  
FAX043-238-2867  
<http://www.cswchiba.com/>  
E-mail: office@cswchiba.com  
※点と線はメール配信でも読みます！

## 特集 「我が事」「丸ごと」



僕の子どもはワガママだ。食べっぱなし。出しっぱなし。お気に入りの猫のタオルは「濡れたらかわいそう。」と一度も使ったことがない。ある日僕は風邪をひいた。薬を飲んで早く寝よう。夜中にびしょびしょの猫のタオルから、氷のように冷たい水が頬をついた目が覚めた。小さな両手をまっ赤にして、「パパの病気は僕が治してあげるから安心してね。大丈夫だからね。」この子はいつも僕の事を考えていた。何で今まで気づかなかつたんだろう。我が家まるごと。我が事まるごと。

### 《特集》

#### 2 「我が事」「丸ごと」

はじめに

支えられる側と支える側との間に 竹嶋 信洋

狭間のない支援 人とのつながり 南雲 いずみ

困っている人たちを助け合っていける社会 吉田 圭介

まとめ

#### 7 地域集会 長生・夷隅地区

佐倉・四街道・八街地区

#### 9 ワンアップ研修

#### 10 社会福祉士のわ

11 災害の情報収集に関するホームページレイアウト変更のお知らせ  
ブレインストーミング

#### 12 事務局便り



二〇一一年八月に障害のある子供たちの療育と居場所づくりをするために、独立。拠点は、住宅街の一区画である。子どもたちが、気持ちが盛り上がった時に出る大きな声、散歩中のパニックなどに冷や汗をかく毎日。他の事業所では子どもたちが出す声に、地域住民から「出て行け」と言われ、窓を二重サッシにする工事をしたとか。そんなことにならないように、「啓発しなければ」「理解してもらわなくては」と肩に力が入る。しかし、この地域の住民は全く気にしていない。むしろ「大丈夫かい？」と泣く子供に声をかけてくれる。この地域、なんだか温かい。

二〇一六年二月に、町会長から「うちに遊びにこい。話がある」とのお説。そこには、四国から取り寄せたというカツオのたたきや豪勢な食事とお酒があつた。美味しいただいた後に事件は起きた。「実は、夏頃に脳梗塞をやつてね。体もきついし…そこで君に町会長

をやつて欲しい。」との話。カツオも食べてしまつたし、逃げられずに引き受ける羽目になった。

会長を引き受けたことなど（など）や貧困、障害者など、町には、多くの課題があることだ。こうした問題に直面して気がついた。それは、「誰もがニコニコ暮らせる街は、結果として障害のある人も住みやすい町なんだ」と。

障害のある子供たちは、ほとんどの時間を「支えられる側」で過ごす。しかし、誰もがニコニコできる町ではこれが逆になることがある。例えば、事業所の畑を使って、サツマイモを育て、秋に収穫祭をやつたことがある。食べきれないほどのサツマイモやレタスが獲れた。これを自治会館に持つていくと、生活に困窮したお年寄りが取りに来るのだ。子どもが、支援される側からお年寄りを支援する側に変化していく瞬間だ。また、

足の悪いおばあちゃんが庭の手入

れに困っていた。うちの事業所に通う子どもが庭をきれいにした。

シーンを変えてもう一事例紹介

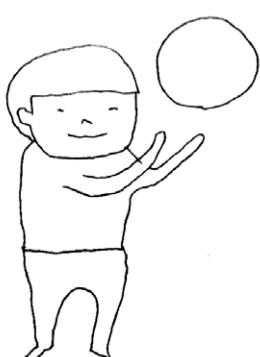
したい。自治会の活動に、独居のお年寄りで七五歳以上を対象にした「ふれあいランチ」というもの

がある。お年寄りの話し相手として、毎回四名から五名の職員を出している。こちらは支援しているつもりだった。ところが、自治会の人はそう思っていない。「あん

たら若いものは、どうせろくなものを見ていないのだろう。手作りで、体にいいものを食わしてやつて。私らに感謝しなさいよ」と…。支援しているつもりが、支援されていた。驚きと新しい感覚がこみ上げてくる。

こうした支援される側とする側に境界がない、または曖昧さ、これがなんとなく心地よい。地域には、一方的な方向に向かうベクトルはなく、全ての人と人の相互関係で成り立っている。みんな、この地域で生きている。障害者や高

齢者を孤立させてしまうと、人と人は繋がつていかない。誰もが、そこに、ただいるだけでいい…。これが私たちの目指す「我が事、丸ごと」である。



## 狭間のない支援

人とのつながり

中核地域生活支援センター

君津ふくしネット

障害者グループホーム等

用雲  
一  
づみ

「なぐも  
いづみ」



一本の電話から始まりました。

「婦は暮らせますか？赤ちゃんがいても大丈夫ですか？」

事業所としては、この夫婦の想

いを応援したい。しかし、前例のないことは、難しい。この家族の将来を案じて、関係者会議が開かれました。相談支援専門員、グループホーム事業所、病院相談員、児

児童家庭課、生活保護課、保健課から担当者が、また、生活困窮者自立支援センター等々二十名余が集まり議論しました。

まずは、障がいのある夫婦が子育てし、働いて生活をしていくには何が必要か話され、夫婦が出来事と出来ない事が整理され、出来ない事をサポートするために利用できる制度や公共のサービスが出来されました。そして「足りないものは、だれがどのように補いながら、この家族を支えるのか?どう寄り添うのか?」何回も話し合われました。残念ながら、今は、夫婦が望むような形になつていません。しかし、私たちはこの家族にはまだまだ寄り添つていこうと思っています。

私は障害者グループホーム等支援ワーカーとして、仕事をしています。障害者グループホーム等の量的拡充と質的向上を図ることが主な仕事です。グループホームに

から担当者が、また、生活困窮者自立支援センター等々二十名余が集まり議論しました。

まずは、障がいのある夫婦が子育てし、働いて生活をしていくには何が必要か話され、夫婦が出来

私は、ひとりでいい方向に進める  
ことが下手なので、多くの人の助  
けを借りて仕事をしています。

実は、私の母は『バリバリの認知症』で、『時』は、十年前、二十年前、五十年前を混在させながら、それでも新潟の田舎町で一人で暮らしています。週三日デイサービス、週三日ヘルパーを利用し、ごみ出しの朝は隣家の奥さんが声をかけ

ものは、だれがどのように補いながら、この家族を支えるのか？どう寄り添うのか？」何回も話し合われました。残念ながら、今は、夫婦が望むような形になつていま

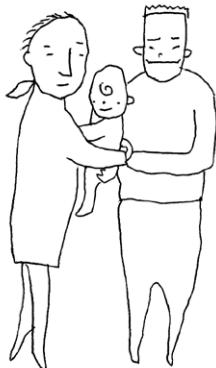
せん。しかし、私たちはこの家族にはまだまだ寄り添つていこうと思っています。

この夫婦の困り事を近所さんに話すと、「うちに来て爺さん、婆さん

たがあ（したのか）……？」と心配をして私に電話が来ます。かつて、両親はご近所さんにそうしていたのだと思います。ケアマネさんも時々ご近所に顔を出してくださいます。私は職場の仲間が快く送ります。

この夫婦の困り事を近所さんに話すと、「うちに来て爺さん、婆さんの話を聞いてくれよ。俺が赤ん坊はみるよ」「うちは子どもが巣立つたし、たまには私が赤ちゃん見ようか?」と言つて下さった方もいました。『地域』は捨てたす。

のだと思います。ケアマネさんも時々近所に顔を出してくださいます。私は職場の仲間が快く送り出してくれるので、月に三回位、実家に帰ります。母とのんびりします。住み慣れた家で暮らす母の『生きる』を支えてくれている人達が大勢いて嬉しいです。



感謝！です。

私の「わがごとまるごと」は…？ともかく、生きていて人と繋がっていることでよいのかなと感じています。『お互いさま』『持ちつ持たれつ』『お隣さま』『仲間』という言葉で繋がる線が多ければ多いほどよいのかな？と感じながら、今日も生きていたいと思います。

## 困っている人たちを 助け合っていける社会

認定NPO法人

まごころネットワーク

吉田 圭介

「よしだ けいすけ」



私は、介護支援専門員として主に流山市を中心に活動しています。二〇〇五年につくばエクスプレスが開通し、“母になるなら、流山市。”“都心から一番近い森のまち”をキヤッチフレーズに流山市も首都圏にアピールしたこともあり、若い世代が増え、人口も増加しています。このことで市全体では高齢化率が低下していますが、新しく、高齢化率が深刻で、買い物不安

や独居老人の問題が多く生じている地域があつたり、子育て世代が増えたことで学校不足の問題、また、マンションが激増したことによる近所づきあいの希薄化や関係機関が介入しづらいため虐待の発見が遅れるなど、様々な問題が生じています。

私にとってのわがごとまるごとは、子供から高齢まで、障害や疾病の有無にかかわらず、可能な範囲でそれが特性を生かし、様々な形で社会参加をしていく中で役割を持ち、困っている人たちを助け合っていける社会です。しかし、これを実現していくには今以上に、国民の福祉や介護に対する知識と関心が伴わなければとても不可能だと思います。また、支援に関わる人のバーンアウトにも配慮しながら行っていくことが必要不可欠だとも思います。そして、高齢、障害、児童、貧困分野がそれぞれ連携でき、支援困難なケースには今よりも幅の広いネット

ワークで、かつ、一本一本が太く、細かい網目にしていかないといけないと考えます。

現在、私が担当しているケースで、昨年軽度の認知症を患つた一人暮らしの女性が、新築建売住宅街に住む娘さん夫婦と一緒に住むことになりました。母親がいつになつても帰つてこないのを心配し

家周辺を捜していたところ、一軒の家の中から怒鳴り声と聞いたことのあるような声が聞こえ、近づいてみると、母親が勝手に家の中に入ったことを家主からこつびどく怒られていたそうです。それ以来、本人が外出することが減り、うつ傾向となり、家にこもりがちな生活になつていきました。

私はその日の出来事を聞いた時、「もつと認知症への理解があつたら…」と思つてしまつたのと同時に、事前に自治会長や民生委員、隣近所だけでなく、もう少し広い範囲まで認知症の特性を周知しておけば（プライバシーや個人情報

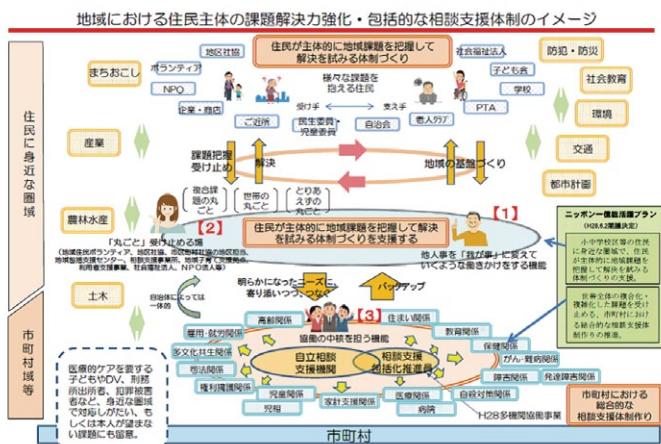
の保護の問題もありますが・・・)と、防げなかつたことで自責の念にかられました。

現在、行政やメディアも福祉や介護に関する情報を発信していますが、まだまだ理解が得られない人もたくさんいると思います。

今後も私自身、我が事・丸ごとの実現に向けて、行政任せだけではなく、微力ですが介護事業者として、また、一社会福祉士として、今以上に様々な機関と連携しながら、地域に出向いて、一人でも多くの人に理解を広められるように活動していきたいと考えています。

**【1】他人事を「我が事」に変えていくような働きかけをする機能**  
**【2】「複合課題丸ごと」「世帯丸ごと」「どりあえず丸ごと」受け止める場**  
**【3】市町村における包括的な相談支援体制**

住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくりを支援するために、次の機能が求められている。



竹島氏の実践報告から気づかされたことは、一方的な方向に向かうベクトルではなく、全ての人と人の相互関係で成り立っているということだ。他人事を「我が事」に変えていくような働きかけをするとき、肩ひじをはって住民に対し、その解決を求めて、よい関係性は生まれにくい。利用者に寄り添つてきたように、地域の住民と寄り添い、多様な相互関係を育むことで、互いの事を我が事として受け止められる。

南雲氏は、実践報告の中で、「ひとりでいい方向に進めることが下手なので多くの人の助けを借りて仕事をしている」と語っている。この姿勢が、「どりあえず丸ごと」受け止める場となるソーシャルワーカーの強みだろう。周りの力を引き出し、その力と利用者との結びつきを強固なものにしており、地域の支えあいの中で自立できる力を育てている。

※図は、厚生労働省「地域における住民主体の課題解決力強化・相談支援体制の在り方に関する検討会（地域力強化検討会）」の最終とりまとめ概要（平成二十九年九月十二日）を引用

者が暮らす場面は、知り合いのただでなく、より広く他人事を我が事に変えていく事の必要性を痛感しながらも、その働きかけは一難しい現状がうかがえる。このジレンマに行政、地域を巻き込む好機が今だと思いたい。

他人事を「我が事」に変えると、ということは、なかなか理想通りに進まないからこそ、ソーシャルワークに期待が寄せられている。

暮らしに支えが必要な方がいた時にその支えの一つ一つの点のような動きを結びつけていく事で、線から面となり社会を変えていく力としていきたい。

## まとめ

これが求められる場面は多くなる。ソーシャルワーカーが力を発揮する

吉田氏の実践報告からは、利用

普段は、地域包括支援センターの主任介護支援専門員として働いているが、地域包括支援センターは、明確に仕事内容が分かれているわけではない。しかし、介護支援専門員としての意識が強いため、地域集会のお知らせが来るたびに、社会福祉士として仕事をしてないのに参加していいのかなと迷いながらも参加している。

介護支援専門員や地域包括支援センターの職員としての研修が多く、社会福祉士としての研修にあまり出ていない状況である。だからこそ地域集会での勉強がとてもためになっている。また、普段知らなかつたことや仕事に直結する内容など様々なことを学ぶことが

地域集会に参加して  
茂原市地域包括支援センター  
岩坂 理奈

## 地域集会

長生・夷隅地区

できるので、参加することをとても楽しく感じている。

地域集会では、普段は会うことがない社会福祉士の方と会える機会だと思っている。地域では、いろいろな職場で社会福祉士が働いているんだと改めて知ることができ、それが、自分の仕事への励みにもなっている。また、普段、仕事を関係のある方でも地域集会で会うと普段とは印象が違つて見える。あまり、深く話をする機会がなかつた人と少し深い話ができるのも、地域集会に参加してよかつた点である。

地域集会では、「認知症カフェ立ち上げの話」「栄養士さんのお話」「社会福祉士の役割と地域包括ケアのお話」に参加している。

「認知症カフェ立ち上げ」については私自身も関わっているので、参加している皆さんに認知症カフェのことを知つてもらえるといいなと思って参加した。認知症

カフェは、認知症の方、介護している家族、地域住民、専門職が一緒に過ごせる場所として全国各地で立ち上がっている。今回、地元の専門職が皆で話し合い立ち上げることになつたが、場所探しやボランティアの手配などいろいろな

会だと思っている。地域では、いろいろな職場で社会福祉士が働いているんだと改めて知ることができ、それが、自分の仕事への励みにもなっている。また、普段、仕事で関係のある方でも地域集会で会うと普段とは印象が違つて見える。あまり、深く話をする機会がなかつた人と少し深い話ができるのも、地域集会に参加してよかつた点である。

地域世話人 秦野隆治  
教科書的なことは随分前に忘れてしまつていたので、改めて振り返る良い機会となつた。社会福祉士としてどれだけ役割を果たしていくのかも考へると知識の偏りもある、まだまだ勉強することが必要であると思う。資格を持ち仕事をしていくことは、常に新しい知識や技術を身に着けて自己研鑽をしていくことが大切であると改めて感じた。

これからも地域集会に積極的に参加し、自分自身の知識や技術を向上させ地域に還元できればいいと思う。

困難があつたので、発表する場があるのはとても励みになつた。現在も活動を続けており、社会福祉士も活動に関わっている。

## 地域集会

佐倉・四街道・八街地区

『ダイバーシティ・ソーシャルワーク原ミナ汰さんをお招きして!』  
平成二九年七月二三日(日)  
佐倉市白井公民館に於いて

「さて、次の集会どうしようか?」「ダイバーシティ(多様性)はどう?」「おお、グローバル定義に入ったよね」「この間、衝撃的なこと聴いたの。性的違和感を持つ人は十三人に一人いて、人知れず悩んだ末に自殺してしまう人も多いそうよ」「生きづらいよね。ちよつと普段の仕事からは離れるけど、チャレンジしてみようよ」という会話からテーマが決まり、候補者が決まり、ポスター(チラシ)もきれいに仕上がりました。

講師としてお招きしたのは、原ミナ汰先生。ご自身がXジェンダーとして不登校・ひきこもりも経験され、

二十代後半以降、レズビアンのサポートグループづくり、性被害のピアサポート・支援を開始。「共生ネット」を立ち上げ、「より新しいホットライン」で統括コーディネーターを務め、全国五〇〇か所以上でマイノリティ相談・居場所・啓発事業に協力しています。著書翻訳書も多数です。

まずは「LGBTQ」の悩みは、生活の悩み・性の多様性の尊重と社会福祉士の関わり」と題してお話しを伺いました。

LGBTは日本に約七・六%存在していて、佐藤さん、鈴木さん、高橋さんなど（苗字）より多い。すぐ隣に居るのに見えづらいため生きづらい。人間関係での悩み、社会的排除、差別、家族との不和、希死念慮、自死企図、いじめ等々での電話相談が多い。やはりとても息苦しく、自殺リスクが高まる。特徴として、①困難が目に見えない→ネグレクトされる。②性的規範と密接→性差別される。③身近な人に頼れない→孤立する。④とても告白（カミングアウト）しづらい。告白があつたら、あなたは良いキャラになれるでしょうか？

そもそも学校で、職場で、地域で、「心理的安全性」があるのでしよう

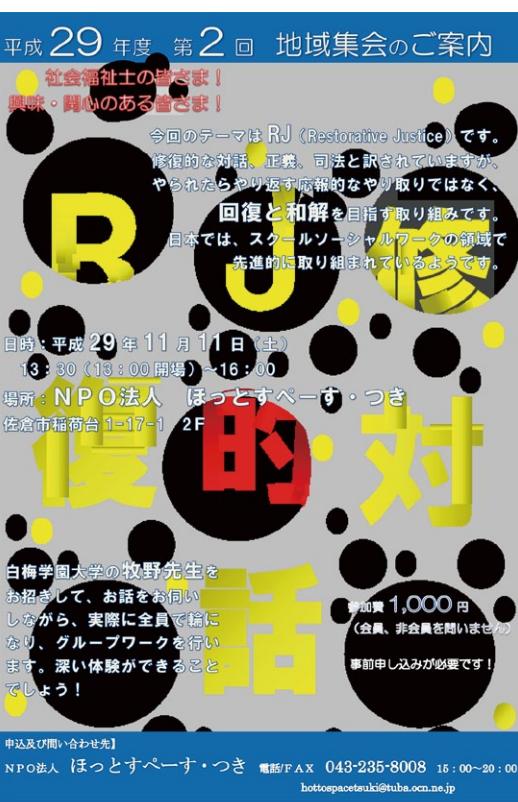
か？ 悩みを知り、偏見の構造を知り、相談できる人になりましょう、とのお話しでした。

続いてのグループワークでは、四つのグループに分かれて事例を研究。「学校で・地域で・登場人物になりきりワーク」孤立しがちなLGBTをどう支えるか」とのお題を先生からいただき、率直な思いを各人が語りました。

児童青少年課の職員、市議会議員、学生・生徒など非会員も多かつたのですが、とてもいい雰囲気で話し合えたと思います。私の個人的な感想では、「心理的安全性」にとてもうなずくモノがありました（自分の会社にもないなあ）。そして多様性の尊重。これはやさしいようでとても難しい課題です。もちろん自分の中にも乗り越えなければならぬ高いハードルを感じます。そしてソーシャルワーカーの一人として、ミクロで相談援助に乗りつつ、メゾンマクロで構造を変えるアクションを最前線で起こさなければならぬと思いました。

さて皆さんに質問です。性は自由選択にまかせるべきでしょうか？

答えは私、秦野や参加者に訊いて下さい。



次回は、RJ（修復的対話）に取り組みます。ご期待ください！（次は黒字になるかなあ）

# 研修報告

## ワンアップ研修

堀江 亜希子（ほりえ あきこ）  
立川 大輔（たちかわ だいすけ）  
大橋 美和（おおはし みわ）

研修について、各々が自身で探し出すという状況で、修了後の進む方向性が不透明な状況でした。そこで、「この研修を通して得た『横の繋がり』を維持して、『学びの機会』を研修終了後も持ち続けられ、日々の実践の振り返りや自己研鑽が行える場が無いなら、作ればいい！」と思いい、企画をしました。

### 【内容】

基礎研修で出会ったみんなとの繋がりをこれからも残したいな」「これからもこうして学びの機会を持ち続けたいよね」

今から一年ほど前のある日、基礎研修Ⅲの休憩時間に交わされた受講生同士の会話がこの研修開催のきっかけでした。

基礎研修Ⅰ～Ⅲ（※注）の受講を通して、多様なバックグラウンドを持つた社会福祉士と出会いました。働く領域も経験も年齢も勤務地もバラバラでしたが、同じ「社会福祉士」という資格を持つ者同士、共に社会福祉士としての専門性の向上を目指して学びを深め、社会福祉士同士の横の繋がりを構築することが出来た研修でした。しかし、私たちが基礎

### 【開催経緯】

平成二十九年度は、一回に渡って、事例検討・事例研究を行ないました。

基礎研修で学んだ「実践事例研究」の手法や「アプローチ・理論」も併せて確認を行い、参加者が持ち寄った事例をもとに少人数のグループに分かれて検討会を行ないました。

普段、行なっている支援を検討しながら「専門職としての理論に基づいた支援となっているか?」、「どのような視点でアプローチをしているか?」、「ソーシャルワークの展開過程に基づいた支援となっているか?」等と共に検討しました。検討

合った内容を会場全体でシェアし、学びの共有を行ないました。

二日目の最後にはエンパワメント体験を行ない、出席者皆で「明日から頑張ろう！」と暖かい気持ちで閉会することができました。

### 【感想】

研修の企画・開催から携わるのは初めての試みでしたので、手探りの中での開催でしたが、研修委員会の先輩方の支えもあり、無事に開催することができました。基礎研修で学んだ事例検討の手法、ソーシャルワーク理論やアプローチの再確認の機会となり、日頃の自身の実践を振り返ることでもよい機会となりました。また、事例検討を通して、他の社会福祉士のソーシャルワーク実践について知ることが出来、世界が広がったように感じました。

今年度は、事例検討を行ないましたが、ソーシャルワーク実践の深化と社会福祉士同士の繋がりを広めて、社会福祉士としてワンアップ出来るような内容を企画・検討していく方やこんな内容で開催してほしい等のご意見がある方は、是非お声かけください。一緒にワンアップしましょう！



※注）基礎研修Ⅰ～Ⅲは、千葉県社会福祉士会の生涯研修センターが日本社会福祉士会のプログラムに基づいて、開催されている研修です。

## 社会福祉士のわ

たちは就職し、私の髪には白いものがたくさんに。

### 人生の山も谷も愉しみたい

「今までの自分。そしてこれから自分

稻葉 明美 「いなば あけみ」

### 福祉の世界に入ったきっかけ

私が福祉の世界に入ったのは、病院の外来に来ていたご高齢の方々との出会いがきっかけでした。自分の中に在宅介護の知識の必要性を感じ、ケアマネの資格取得を目指しました。

二～三年を予定していたケアマネの仕事は、気がつくと十四年。子供たちの反抗期、受験、そして夫の病気等々と重なり、必死に駆け抜けた歳月でした。

途中、縁あって地域包括に移つたことをきっかけに、社会福祉制度や権利擁護に触れることも増え、更に福祉の世界に浸りました。気がつけば、いつの間にか子ども

私はちようど一年前に、昨今の社会問題にもなっているような職場環境を経験し、仕事を辞めました。心身ともに打ち碎かれ、自分の命すら持て余す時間を過ごしました。

した。

そんなかつて経験したことのない私の大ピンチを救ってくれたのは、自分の家族、職場も立場も違う社会福祉士の諸先輩方、一緒に研修を受けてきた人たちでした。

「さりげなくそつとそばにいて、そして、さつと手を差し伸べられる、ほどよい距離感をもつことは大切だ」と、精神保健福祉科目の先生がおっしゃっていましたが、昨年私は身をもつて体験をすることになりました。

たくさん的人に支えてもらいました。そして、少しづつ頭をもたげ、一歩前に動きだそうとする自分の気持ちの変化に気づいた時、嬉しくて涙が出ました。

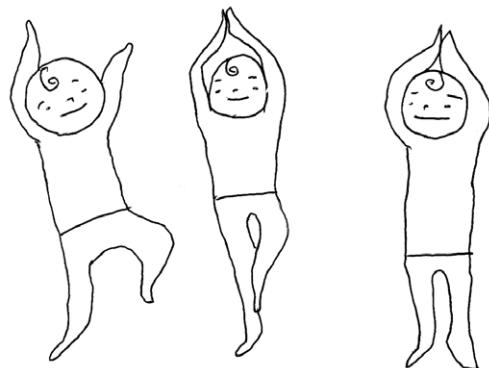
私は今、老健で看護師として働き始め、新たな環境や出会いの中で日々奮闘中です。全然違う仕事に復帰したように言われる方がいますが、そうでもありません。

施設ケアマネ、介護職、リハ職、栄養課、連携室の方々と一丸となり、個々人の在宅復帰を目指した支援や対人援助方法を模索する中で、共通するものがあります。

亡き父の教えですが、日々の生活や出会いには必ず意味があり、行いすべて自分に戻つてくるものだと。

多くの方々から学びや支えを頂きながら、今私があることに改めて感謝しながら、これから的人生を愉しみたいと考えています。

こんな私ですが、これからもご指導の程、宜しくお願ひ致します！



## 災害の情報収集に関するホームページ レイアウト変更のお知らせ

ホームページで「被災地支援」の情報をお伝えしました。被災地には、そこで暮らす人々の生活があります。

助の仕組みの御案内と、災害ボランティアを求めている被災地の情報にリンクができるようにしました。ご活用ください。



### プレインストーミング

今回のプレインストーミングですが、執筆担当である私が編集会議に向かうのが遅くなり、全くもってプレインをストーミングすることができませんでしたので、今回は小噺をひとつ。

それは今日、駅付近駐車場に車を停め、用事が終わり車に戻ってきたことがあります。

私は「駐車番号は十八番ね…」

番号を押すと五〇〇円の表示。

私は「ん?…高くね…?」

まあいかとお金を入れる。

機械「バーが下がったことを確認し発進してください」

私は「車を見ると下がってないやないか!」

皆さんもうお分かりですねーこう、番号間違えました!てへ!

という訳で、こんな私ですが今後とも皆様よろしくお願い致します。

ブレインストーミングとは、※ウイキペディアより抜粋

アレックス・F・オズボーンによつて考案された会議のひとつ。

集団思考・集団発想法・課題抽出ともいつ。

集団でアイデアを出し合うことによって相互工作の連鎖反応や発想の誘発を期待する技法である。

「そこで暮らす人々の必要としていることは…」が第一です。

被災者自らが生活再建への意欲を持てるようなエンパワーメント? 様々な人々との協働を生み出すコーディネート技術?

生活と支援制度の活用を結びつける相談援助技術?

ただ、暮らしの場で、地域の住民同士が助け合い、取り組んでいくことに寄り添うこと?

「そこで暮らす人々の必要としていることは…」が第一です。

被災地には、そこで暮らす人々の生活があります。

千葉県社会福祉士会ホームページ「被災地支援」のページでは、「一般社団法人千葉県社会福祉士会には、大規模災害時対応ガイドライン」、補

ちなみにオズボーンさんはオジー・オズボーンさんとは別人である。

完

## 事務局便り

天候不順の夏が終わり、食欲とスポーツと研修の秋です。みなさまいかがお過ごしでしょうか。  
そして、どんな新しい出会いがあったでしょうか。  
早いもので、師走の足音も聞こえてまいりました。お忙しい日々をお過ごしのことと思います。  
これからやってくる寒い季節、くれぐれもご自愛ください。

## 研修等・行事のお知らせ

※研修等が新たに決定した際にはホームページに随時掲載致します。是非チェックしてください。

千葉県社会福祉士会ホームページ：<http://www.csvchiba.com/>

### 【以下、今後の研修予定】

- ・権利擁護センターぱあとなあ千葉運営委員会- ぱあとなあ千葉サポート、テーマ別弁護士との事例検討他

はじめて!

### ＊＊ 新事務局員のご紹介 ＊＊

8月1日より事務局に入りました高木です。事務局での多岐にわたる仕事を一つ一つ正確に取り組んでいきたいと思います。ご迷惑をお掛けすると思いますが、精一杯頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

## ようこそ！千葉県社会福祉士会へ

氏名	居住地	勤務先	氏名	居住地	勤務先
宮本 秀樹	袖ヶ浦市	常磐大学	西村 一哉	松戸市	—
小暮 瞳真	松戸市	常盤平地区在宅介護支援センター	大内 律子	鴨川市	—
丸田 峻之	千葉市	社会福祉法人 苗場福祉社会 アルマ美浜	上野 広喜	松戸市	—
平戸 壽夫	白井市	NPO 法人 成年後見なし坊安心サポート	木内 洋子	鎌ヶ谷市	—
保田 あかね	大網白里市	ワークショップ鎌取	油槁 実保	山武市	—
磯野 由和	松戸市	社会福祉法人 流山あけぼの会 あざみ苑	大石 実	白井市	—
伊藤 明美	長生郡	—	馬谷 益夫	四街道市	三菱地所ホーム株式会社
増田 葉子	印西市	印西市議会 印西地区保護司会	田村 則子	館山市	障害者就業・生活支援センター 中里
川口 謙	浦安市	—	久本 真司	佐倉市	—
櫻井 知恵	—	医療法人社団 昌健会おおあみ在宅診療所	瀧澤 茉佑子	草加市	—
山下 君子	松戸市	木下の介護 南柏	堀口 麻理子	木更津市	富津市富津地区地域包括支援センター
普天間 麻紀	松戸市	—	片岡 夏美	千葉市	医療法人社団 優仁会 鈴木神経科病院
野村 充津子	市川市	市川市高齢者サポートセンター 市川東部	武田 由美	南房総市	NPO 法人 たからばこ
松尾 加奈	—	淑徳大学アジア国際社会福祉研究所	岡田 高幸	市川市	印西市印西北部地域包括支援センター
森川 裕美	千葉市	—			

※正会員登録書「点と線掲載の可否」の項目で、可に○を頂いている方のみ掲載しております。（順不同・敬称省略）

### 平成29年9月末現在の会員数

正会員 1,461名、 準会員 4名、 賛助会員 2名 合計 1,467名